

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-225789

(P2000-225789A)

(43) 公開日 平成12年8月15日 (2000.8.15)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テームト (参考)

B 4 2 F 1/02

B 4 2 F 1/02

K 2 C 0 1 7

H 0 1 F 7/02

H 0 1 F 7/02

U

審査請求 未請求 請求項の数3 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平11-68818

(22) 出願日

平成11年2月8日 (1999.2.8)

(71) 出願人 000200057

川瀬 正夫

栃木県大田原市城山1丁目5番26号

(71) 出願人 594097402

川瀬 一郎

栃木県大田原市中田原1965番地

(72) 発明者 川瀬 正夫

栃木県大田原市城山1丁目5番26号

(72) 発明者 川瀬 一郎

栃木県大田原市中田原1935

Fターム (参考) 2C017 BA16 DA03

(54) 【発明の名称】 ペーパーホルダー

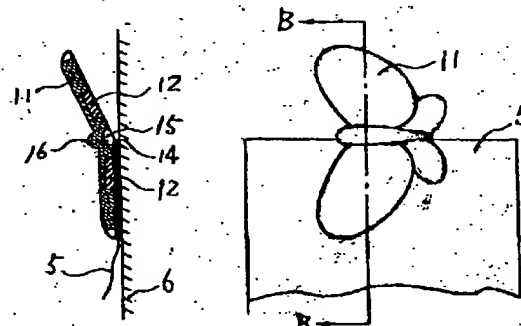
(57) 【要約】

日常頻繁に使うマグネット付ペーパーホルダーに関する。

【課題】 マグネット付ペーパーホルダーを、片手だけで使いたい、教育玩具にもしたい、もっとバラエティーのあるものにしたい、幅広な紙片も一人で保持したい。

【解決手段】 1、支点稜を軸に、左右対称な両翼の下面にマグネットを埋設してシーソーの様に片翼がスチール面に磁着すれば片翼が開き、逆にすれば反対側の翼が磁着するのを利用する。上下が非対象のものも、同じ様に使える。2、教育玩具には、蝶、花、飛行機、旗、人形、鳥等のキャラクターがつかえる。

【効果】 片手のみの人々にも使えて、両手の使える人にはもっと便利で、綺麗で、教育玩具として使えば児童にも飽きさせない、ペーパーホルダーが提供出来た。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 支点稜を挟んで上反角のある両翼の下面に、支点稜からやや離れてマグネットを埋設し、片翼がスチール面に磁着すれば、他の片翼がスチール面から離れて、紙片を挟む間隙を作り、紙片を差し入れてその側の片翼をスチール面に磁着させて紙片を保持し、その逆動作にして紙片を外す、ペーパーホルダー。

【請求項2】 支点稜を挟んで上反角のある両翼の下面に、支点稜からやや離れてマグネットを埋設し、片翼がスチール面に磁着すれば、他の片翼がスチール面から離れて、紙片を挟む間隙を作り、紙片を差し入れてその側の片翼をスチール面に磁着させて紙片を保持し、その逆動作にして紙片を外す。その形状、絵柄、及び、彩色を自然物、人工物、キャラクター等で修飾したペーパーホルダー。

【請求項3】 支点稜を挟んで上反角のある両翼の下面に、支点稜からやや離れてマグネットを埋設し、片翼がスチール面に磁着すれば、他の片翼がスチール面から離れて、紙片を挟む間隙を作り、紙片を差し入れてその側の片翼をスチール面に磁着させて紙片保持し、その逆動作にして紙片を外す。その形状、絵柄、及び、彩色を自然物、人工物、キャラクター等で修飾し、任意の複数箇を磁着積み重ねる、教育玩具ペーパーホルダー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 スチール製白板、同黒板、同家具類に磁着し、それとの間に、紙片を挟んで保持する、マグネット付ペーパーホルダーに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来のマグネット付ペーパーホルダーは、丸形、棒型、板型、等種々の物があるが、一般に、垂直面に紙片を保持しようとするれば、片手で、紙片を持ち、その上から、他の片手で、ペーパーホルダーを磁着させて保持した。僅かに一部の物に、磁着面の両方、又は、一方の側面を、磁着面に対して直角より角度の大きい鈍角にして、その鈍角側面側に、ペーパーホルダーを片手で起こしてスチール面から離して待機せしめ、他の片手で紙片を差し込み、待機していた鈍角面から片手を離して、磁力で転回させ磁着面で紙片を挟むものがあった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 前述の通り、従来のものは紙片を保持するに、原則的に両手を使わねばならず、若し片手のみで保持しようとする時は、かなり無理な使い方を強いられた。又、両手を広げて余るほどの、大きな紙片を一人で保持するには、左右2個のペーパーホルダーを、同時にでも、例え交互にでも、その紙片の上から磁着させる為には、大変無理をしたものである。その他の効用として、幼稚園児や、小学校の低学年児童に、数の概念を教える為の、教育玩具としても使い

たい、それには、単なる丸形、楕円型、長方形では児童が飽きてしまう事に対応して、もっとバラエティーのあるものを提供する事を課題とする。

【0004】

【課題を解決する為の手段】 前項の課題を解決する為に、本発明は次ぎに述べる手段を取ることにした。本体に上反角のある両翼を持たせ、それぞれの、下面にマグネットを埋設し、支点を設ければ、スチールの表面に、シーソーの様に、片側の翼が磁着すれば、その反対の片側は離れ、逆にすれば翼の動きは、同じ様に逆になる事を利用した。それと同時に、本体の形状はどんな形でも良いので、絵柄、彩色は、自然物、人工物、キャラクター等あらゆる物を利用し、互いに磁着するので、任意の数だけのブロックに組むことが可能である。

【0005】

【発明の実施の形態】 本発明を図面によって説明する。図1の、右図は支点稜4の上下が非対象のものの平面図で、左図は、そのA-A断面側面図である。支点稜を基準にしてその上下の両翼は、鈍角の上反角を持つており、支点稜4を挟んで非対象になり、その各々の下面の、支点稜4から少し離れた所に片方は丸形2、片方は棒型3の非対象のマグネットを埋設する。6はスチールの壁面で、紙片5を、棒型3の磁着面で保持する。下図は、底面図で丸形マグネット2と、棒型マグネット3を図示する。その上下の両翼は、片側のマグネットがスチール面に磁着すれば、支点稜を支点として、シーソーの様に、反対の磁着面がスチール面から離れ、逆にすれば磁着する側は反対になる事を利用する。図2は、右図は平面図で、左右が対象な蝶のキャラクターを表し、B-Bで断面する。左図は、その側面の断面図である。本体11は、支点稜14を挟んで対象であり、鈍角の上反角がついて、丸形マグネット12は、支点稜からやや離れて対象に翼の下側に埋設している。左図で、垂直に表れた下側の翼は、スチール面6に磁着して紙片5を保持した図であり、紙片5を保持する時は上にある翼を、スチール面に着磁して、紙片5を支点稜まで差し込み、スチール面から離れている下の翼を紙片の上から押せば、支点稜で反転して紙片を保持する事が出来る。積み重ねダボ14は、半球型でも、長溝型でも良い。

【0006】

【実施例】 本発明は、前項で述べた様に、対象、又は、非対象の鈍角の上反角を持つ翼状をしており、その各々の両翼の下側で、支点稜から少し離れた所にマグネットを埋設する。この様にすれば、その左右の両翼は、片側がスチール面に磁着すれば、支点稜が軸になり、シーソーの様に、反対の片側がスチール面から離れる。この支点稜は、両端2点の支点にしても良い。この様に支点稜を基準にした上反角のある両翼を持ち、その翼の下側にマグネットを埋設したものであれば、どの様な形態、色彩、を用いる事も自由である。図1は、本発明の非対象

の一実施例で、上右図は平面図、上左図は、その断面側面図で、各々、スチールの壁面へ紙片を保持した事を図示し、下図は底面図で、非対象の丸形、及び、棒型のマグネットを図示する。図2は、本発明の対象の一実施例で、蝶の形をイメージし、右図は平面図、左図は側面断面図で、各々、スチールの壁面へ紙片を保持した事を図示する。図3は、斜視図で、この様に蝶、花、飛行機、旗、人形、鳥と、その表現は誠に広汎で自在である。人形の図には、紙片5を保持させた状態を表示した。この様に同型の互いに磁着するものは、何個でも積み重ねる事が出来る。

【007】

【発明の効果】以上述べた様に、それを表す時、動物、植物、鉱物、人工物、左右対象、非対象であることを問わず、どんな物でも、不自然を感じさせず表現可能であり、ペーパーホルダーとして極めて使い良いばかりでなく、これを2個、3個、5個、10個と任意の数を積み重ねて磁着組合せ、足算、引き算、掛け算、割算等の、教育玩具としても、使用することで、児童、生徒を飽きさせず教える事も出来る。又、予め片手のみで、スチール面に片面を磁着させておき、紙片をその支点稜に突き付けて、片手の指で紙片を押さえながら他の指で、反対側の片面を紙片の上に反転させれば、位置ずれ無しに片手だけで、紙片を保持出来る。これは、両手を広げてても余るほどの、大きな紙片を保持するにも、各々の両手で、同じような方法が可能である。この様にペーパーホ

ルダーとしても優れ、教育玩具にもなり、片手しか使えない身障者の人々にも楽しく快適に使用可能な物を提供出来た。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の上下非対象の物で、A-Aで断面し、支点稜と、非対象のマグネットの埋設された図を表す。

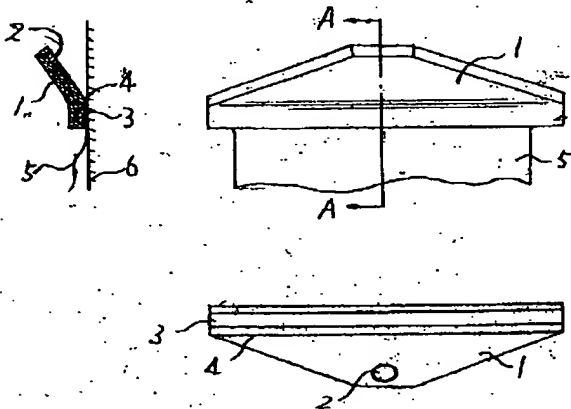
【図2】本発明の支点稜の左右が対象の物で、B-Bで断面し、丸形マグネットの埋設された図を表す。

【図3】本発明の斜視図で、蝶、花、飛行機、旗、人形、鳥を表し、人形には、紙片5を保持させた状態を表す。

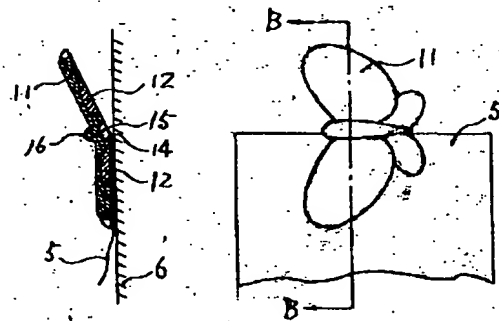
【符号の説明】

- 1 上下非対称型の本体
- 2 上翼の丸型マグネット
- 3 下翼の棒型のマグネット
- 4 支点稜
- 5 紙片
- 6 スチール壁面
- A-A 図1の切断線
- 11 左右対象の本体
- 12 丸型マグネット
- 14 支点稜
- 15 積み重ねダボ溝
- 16 積み重ねダボ
- B-B 図2の切断線

【図1】

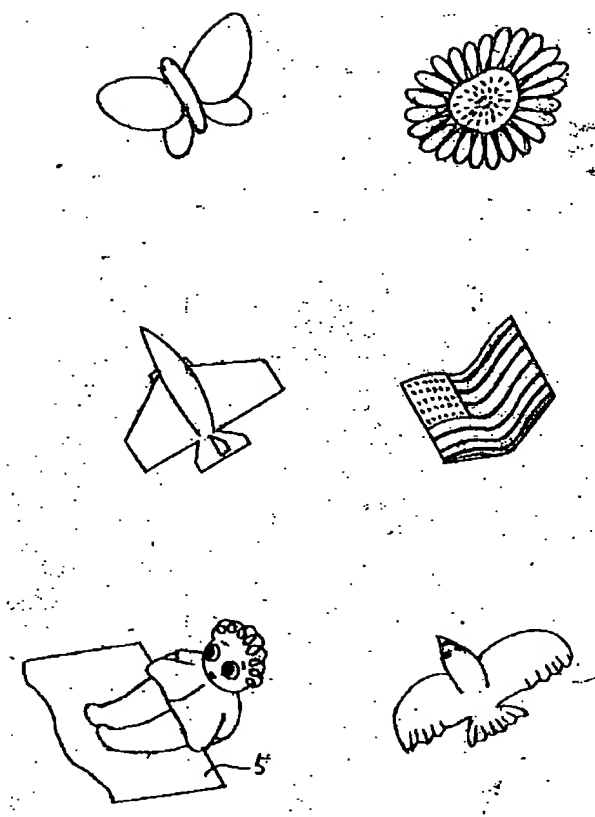


【図2】



BEST AVAILABLE COPY

【図3】



BEST AVAILABLE COPY